

学校経営推進費 事業計画書

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立長尾高等学校
取り組む課題	C 授業改善への支援（生徒の学力の充実）
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な探究の時間」に係る生徒の満足度向上 ・学校教育自己診断における該当項目の肯定率の向上
計画名	長尾みらいプロジェクト ―地域と結ぶ〈対話/思考/表現〉活動とキャリア形成に向けた探究的な学び―

2. 事業計画の具体的内容

学校経営計画 の 中期的目標	<p>1. 新学習指導要領の確実な実施―「確かな学力」の育成と授業改善―</p> <p>(2) 生徒の進路実現の支援</p> <p style="padding-left: 20px;">ア. 生徒の希望する進路の実現に向け、丁寧なガイダンスや面談を実施し、必要な補習・講習・面接練習を行い、多様な入試に対応できるよう支援する。</p> <p style="padding-left: 20px;">イ. 3年間を見通した系統的な進路指導を計画・実施する。</p> <p>3. 専門人材の活用や、地域・大学・企業等との連携の充実</p> <p>(1) 大学、近隣の教育機関、企業、福祉施設、自治体、地域自治組織との連携を深め、地域のファシリテーターとしての素養を身につける。</p> <p style="padding-left: 20px;">ア. 大学等と地域の教育機関との連携を拡充する。</p> <p style="padding-left: 20px;">イ. 地域の安全や防災について、地域自治組織等と連携して取り組む。</p> <p style="padding-left: 20px;">ウ. あらゆる機会をとらえて、地域と連携した教育活動を行う。</p>	
事業目標	<p>総合的な探究の時間『未来創造』において、1年次は「表現力を身につける」、2年次は「社会とつながる」、3年次は「将来を切り開く」というコンセプトのもとアクティブラーニングの手法を用いた探究活動を行い、人と人との繋がりを大切にするとともに、ファシリテーターとして地域社会から愛され、協働して、粘り強く社会で生き抜くことのできる人物を育成する。また、その成果を成果発表会等において広く発信する。これらを通じて、活字からの学習という新しいツールの獲得や自発的な読書習慣を身につけさせることで、さらなる自己実現支援を行う。夢や目標を持った生徒を育成し、未来を切り開く力の支援を行う。また、本を図書室から持ち出して生徒が利用しやすい場所に持っていくことと、教科との連携を強化することで生徒の図書室への人流をつくり、全国平均(35%)より10%も高い大阪の不読率(45%)の改善、生徒の学力向上、第1希望進路達成率の向上及び地域連携にも寄与していきたい。</p>	
取組みの概要	整備する 設備・物 品	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会室及び会議室をアクティブラーニングルームとして整備 (可動式机及びイス、ホワイトボード、携帯型プロジェクタ、スピーカー等) ○報償費(地域企業による特別講義や地域課題検討会議出席者の招へい) ○使用料(成果発表会会場料)
	取組 内容	前 年 度

		初年度	<p>○課題研究プロジェクトの2年めを始動。テーマ②「社会とつながる」 テーマ①「表現力を身につける」は、1年生を対象に続行。さらに内容の充実を図る。 3年計画の課題研究の2年めとして、2年生全員で各自が地域課題を研究し、その解決方法を検討し、提案することをめざす取組みを行う。地域企業から講師を招いて行う特別講義や地域の住民や企業の関係者に参加してもらい開催する「地域課題検討会議」と連動して、地域のニーズや困りごとを生徒たちが直接に聞き取ることのできる機会を設け、1年めに身につけた力を活かして自分ごととして地域の課題に向き合う。</p>
		2年め	<p>○課題研究プロジェクトの3年めを始動。テーマ③「将来を切り開く」 テーマ①「表現力を身につける」は1年生、テーマ②「社会とつながる」は2年生を対象に続行。さらに内容の充実を図る。 3年計画の課題研究の3年めとして、3年生を対象に、企業からアドバイザーを招いて助言を受けながら、各自が社会課題について将来的な解決をめざした「企業ミッション」を立て、新たなサービスや商品を考える取組みを行う。3年間の総合的な探究活動の総括としてプレゼンテーションを行うとともに、生徒がそれぞれ自身の進路について考えを深める。</p>
		3年め	<p>○卒業生も参画することにより課題研究プロジェクトの完成 テーマ①②③の有機的な連携を深め、さらに内容の充実を図る。 ロールモデルとして卒業生を招いて1年生に対する課題研究のオリエンテーションを行い、探究活動への動機づけを高めるとともに、卒業生も含めた地域や外部との連携を深め、より地域に密着した取組みに発展させる。企業と連携する3年次の探究の成果（商品やサービス）により、地域に還元する取組みを行うことをめざす。</p>
	取組みの 主担・実 施者	<p>主 担：「広報・地域連携チーム」担当者と「総合的な探究の時間」の担当者、「生徒会」担当、と「学年担当者」で「課題研究プロジェクトチーム」を編成して全校の中心となり取り組む。 実施者：全教職員</p>	
成果の検証方法 と評価指標	初年度	<p>○「総合的な探究の時間」アンケートにおける肯定率を70%にする。 ○学校教育自己診断（教員）における「生徒が望ましい勤労観・職業観を持てるよう系統的なキャリア教育を行っている」の肯定率を65%にする。 ○学校教育自己診断（生徒）における「授業や部活動、学校行事などを通して、地域の人々や他の学校と交流する機会がある」の肯定率を80%にする。</p>	
	2年め	<p>○「総合的な探究の時間」アンケートにおける肯定率を75%にする。 ○学校教育自己診断（教員）における「生徒が望ましい勤労観・職業観を持てるよう系統的なキャリア教育を行っている」の肯定率を70%以上にする。 ○学校教育自己診断（生徒）における「授業や部活動、学校行事などを通して、地域の人々や他の学校と交流する機会がある」の肯定率を85%にする。</p>	
	3年め	<p>○「総合的な探究の時間」アンケートにおける肯定率を80%にする。 ○学校教育自己診断（教員）における「生徒が望ましい勤労観・職業観を持てるよう系統的なキャリア教育を行っている」の肯定率を75%以上にする。 ○学校教育自己診断（生徒）における「授業や部活動、学校行事などを通して、地域の人々や他の学校と交流する機会がある」の肯定率を90%にする。</p>	